

— NO. 199 8月号

# FOREST NEWS

広げよう  
地球と命を守る  
森づくり運動



## 2024年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーを通じて植樹活動の啓発
- ⑤他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

発行人 高津啓洋

〒121-0072東京都足立区保塚町1-6

Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



パンタナール潜在自然植生② ラパチヨ

## 理事長メッセージ

# 今、いのち・こころ・遺伝子が危ない！

~COP28（国連気候変動枠組み条約締約国会議）開催~

昨年12月、アラブ首長国連邦（UAE）で開催されたCOP28（国連気候変動枠組み条約締約国会議）で、UAEは「大気汚染による死者数が年約900万人に上り、世界で毎年1億8900万人が異常気象にさらされ、熱中症の死亡者数も増えている」と強調。COPで保健が議題になるのは今回が初めてです。

どうしてここまで人間の命が脅かされるようになったのか、真の原因は为什么呢。この地球上では、人間も他の動物たちと同様、生態系の一員です。万物の霊長などといってどんなに威張ってみても、この地球上に生かされている限り、生態系の主役である緑の「寄生者」の立場でしか持続的に生きていけません。

緑の植物、特に緑が濃縮されたほんものの森

が激減している現在、鉄やセメント、石油化学製品などの死んだ材料だけでできた画一的な都市文明が続けば、健康な体も、感動する心も、文化を創造する知性も、そして遺伝子さえも、危険な状態に陥るばかりです。

自分と、自分の愛する人の命を、人まかせにはいけません。自分の足元から木を植え、それを周辺に広げ、失われた「いのちの森」を再現しましょう。当法人では、会員の皆様の熱心な植樹活動により、2004年から昨年までの20年間に、国内外に計16万4326本の木を植えてきました。是非皆さんも、土に手を触れ、植樹体験をしてみてください。私たちも植え続けます。

## パンタナール潜在自然植生② ラパチヨ

ラパチヨはノウゼンカズラ科の広葉樹、南米と中米、特にアルゼンチン、パラグアイ、ブラジルで生息し数十種が知られていてブラジルではイペとも呼ばれています。原木は直径0.6~1mで、樹高は大きいもので40m程度あります。色合いは心材と辺材の境界がはっきりしており、辺材は黄白色、心材は黄緑色から緑褐色をしていて空気に触れて徐々に濃褐色に変わります。

ピンクのラパチヨはパラグアイ全域で見ることができます。南米亜熱帯地方の短い冬が終わると、森林の中に点在するラパチヨの淡紅色、筒状の花が咲きはじめます。

日本人には、その開花の季節、花色や散り具合などが、春の桜を思い出させてなつかしく思う人が多いようです



ラパチヨの街路樹

### 木材として重宝される

ラパチヨは、花木としてばかりでなく、木材としても高く評価され、広葉樹でありながら、非常に重硬で、耐久性も非常に高いため狂いが少なく、また研磨すると美しい光沢が出るので、建築構造材、船舶、車輛、家具、工芸材等、あらゆるところに用いられていました。

日本でも古くからウッドデッキとして採用されており、水のかかるような条件の悪い場所でも15~20年はもつと言われています。耐腐朽性も高く防腐剤などの薬剤処理も必要のない木材です

日本でも港湾エリアの桟橋やウォークデッキなどの公共物件で多く採用されており

「東京アクアラインの海ほたる」「横浜大桟橋」「上野公園の不忍池」などが有名です。



海ほたるのデッキ

### スーパーフーズとして期待

ラパチヨの中でも紫イペ（パウダルコ）といわれる種類は、長年にわたり熱帯雨林の先住民により習慣的に利用されてきていて、ブラジル産薬用ハーブの中でも最も利用価値の高いものの一つとして数えられている。

『神の木』と呼ばれ、薬用用途は多岐に渡り、腫瘍の成長の阻害、体内毒素の排出、浄血等の効果があると考えられています。リウマチ、関節炎、前立腺炎、膀胱炎に対し有効で、体内における真菌やイースト菌の育成を抑制する機能性を持つといわれています。道管中に防虫効果の高いラパコールを豊富に含んでおり、近年、このラパコールに抗癌作用が認められたことで、健康食品や医薬品にも用いられています。（諸説あり）



# 今月のトピック

## 船橋支部で「森づくりセミナー・タブノキ苗の植え替え」をしました！

2024年08月15日(日)12：30～14：00  
場所：中央公民館 第4会議室)

毎年恒例になりつつある「森づくりセミナー」を今年も開催できました。船橋駅から徒歩7分の中央公民館を初めて使わせて頂きました。5階にある第4会議室は広く音響の良いフロアーでした。第9回地域に飛び出せ！！ふなばし夏のボランティア体験を見て応募してくれた学生8名（中学1年4人、3年2人、高校1年2人）が参加しました。高津先生のセミナーを聞いた全員が皆1言ずつ感想を述べました。「今ある自然が本物の森でなく、人が植え替えてしまったこと」「人間も絶滅危惧種なこと」「1秒間にサッカー場1面分の緑が消えていること」「100年前は1年に1種の生物が絶滅。現在は1日に約100種の生物が絶滅していること」等を初めて知り驚いていました。



今回は浜離宮で拾ったタブノキの種が芽を出したのでポット苗の植え替えもしました。全部で61本。

参加者から「タブノキの植え替えも経験できたことでこれからの樹木の育成に関心を持ちました。そして環境を守り植林の大切さがわかりました。頂いたタブノキも大切に育てます。これからの生育が楽しみです。」と感想も頂きました。

文責：船橋支部 伊藤由美子



YouTube チャンネル  
植樹のギモン答えます  
「教えて高津先生 ⑤」

質問です  
なぜポット苗に植えてから  
植樹をするのですか？

高津先生の  
回答は  
こちらから

